

第 58 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告

- Continuing Education Course に参加して -

大日本住友製薬株式会社 前臨床研究ユニット 田村 明敏

日本毒性学会 (JSOT) 教育委員会が企画する SOT 派遣事業として、メリーランド州ボルチモアのボルチモアコンベンションセンターで開催されました第 58 回 SOT 学術年会と教育コースに参加させて頂きました。朝晩に少し冷え込む日もありましたが、期間を通じて晴天に恵まれ大変過ごしやすい気候だったと思います。教育コースの指定セミナー「Conducting Systematic Review in Toxicology – Why, When, How?」の詳細につきましては本年に JSOT 主催で開催される生涯教育講習会にてご報告させて頂きますので、次章では簡単にご紹介だけさせて頂きたいと思います。



Systematic Review とは「特定の研究課題に答えるために、複数の実証的証拠を特定、評価、統合し、意思決定に役立つ信頼できる知見を生み出すこと」と定義されますが、そのプロセスは「問題の定式化・プロトコル開発・証拠基盤の選定・個別の試験評価・統合証拠の評価・報告」の 6 つのステップで実施されます。講義ではこの各ステップの実施手順について、とても丁寧に分かりやすくご説明頂きました。日頃の業務の中でも科学的なレ

ビューを行うことがあるため、その際に参考になる点が数多くあったように思っています。

学術年会では近年開発された技術である次世代シーケンサーや Organ-on-a-chip を利用する際の課題や安全性評価における iPS 細胞などの幹細胞を用いたモデル作製の有用性、新規治療法である遺伝子治療や細胞治療、免疫調整型抗がん剤の非臨床/臨床評価の現状など、様々な分野の最新情報について触れることができ大変勉強になりました。また、企業展示においては最新の機器や試験法、安全性評価に利用可能な生体試料の紹介があり、学術的な情報に加えて業務に直結する役立つ情報を入手することができ、非常に有益なものとなりました。

最後に、このような機会を与えてくださった JSOT 教育委員会および事務局の皆さま、また SOT 参加に際し社内業務をフォローして頂いた研究員に心から御礼を申し上げます。SOT は世界最大の毒性学会であり、各分野で最先端の研究をされている先生方と議論できる数少ない機会だと感じております。今後もこの事業が継続されること、多くの学会員の皆さまがこの事業に応募され、SOT に参加されることを祈念いたしております。

